



J. FRONT RETAILING

2011年 1月14日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2010年12月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	12月度	9～12月度累計
百貨店業	▲ 3.6 (▲ 1.5)	▲ 3.7 (▲ 1.6)
スーパーマーケット業	▲ 4.2	▲ 4.6
卸売業	1.8	▲ 8.9
その他事業	▲ 2.0	5.6
連結合計	▲ 3.6	▲ 3.8

(注)百貨店業合計の()内は、松坂屋岡崎店(2010年1月31日営業終了)、松坂屋名古屋駅店(2010年8月29日営業終了)を除く既存店ベース。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・12月度の百貨店事業の売上高は、特選ブランドなどを中心に婦人服の定価商品が好調であったほか、お歳暮ギフトやおせちなど食料品も堅調に推移したものの、梅田店の大規模改装工事の影響(面積が対前年▲39%減)が大きく、大丸松坂屋百貨店合計は対前年▲1.5%減、関係百貨店を含めた百貨店事業合計は同▲1.5%減となった。なお本前年から梅田店を除くと、大丸松坂屋百貨店合計は対前年0.2%増、百貨店事業合計は同▲0.1%減。

2) スーパーマーケット業

- ・ピーコックストアは、売場改装効果で二桁増となった藤沢トレアージュ白旗店をはじめ高野台店、芦屋南宮店などが好調に売上を伸ばしたものの、閉鎖店舗(多摩店、名谷店など計5店舗)の影響などにより対前年▲4.2%減となった。地区別では、首都圏が対前年▲4.5%減、関西地区が同▲2.9%減、中部地区が同▲5.9%減であった。

3) その他

- ・卸売業の大丸興業は、包装資材、金属加工品や電子部品などの好調により、対前年1.8%増となった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2010年12月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	12月度		9～12月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	2.7	▲4.2	10.4	24.5
大丸 梅田店	▲21.7	1.8	▲33.8	▲8.6
大丸 東京店	▲5.2	▲1.0	▲6.8	▲2.5
大丸 ららぽーと横浜店	0.8	-	▲0.1	-
大丸 浦和パルコ店	4.0	-	3.0	-
大丸 京都店	▲0.3	1.7	0.1	3.1
大丸 山科店	▲16.2	-	▲17.3	-
大丸 神戸店	▲0.9	0.5	▲2.1	▲0.0
大丸 新長田店	0.1	-	▲1.3	-
大丸 須磨店	8.8	-	9.0	-
大丸 芦屋店	▲0.5	-	▲0.8	-
大丸 札幌店	8.2	1.9	7.2	3.4
松坂屋 名古屋店	2.8	4.5	2.9	4.8
松坂屋 上野店	2.4	0.9	6.3	5.0
松坂屋 静岡店	0.5	1.7	▲0.3	2.0
松坂屋 銀座店	▲29.3	16.8	▲20.5	30.9
松坂屋 高槻店	▲24.5	4.6	▲21.8	6.7
松坂屋 豊田店	7.5	5.3	7.0	6.3
大丸松坂屋百貨店合計	▲1.5	1.3	▲1.5	4.6
博多大丸	▲2.5	▲4.2	▲1.8	▲2.9
下関大丸	▲0.3	2.0	▲1.8	▲1.6
高知大丸	▲1.9	▲0.3	▲2.2	▲1.1
百貨店事業合計	▲1.5	-	▲1.6	-

(注1) 合計の前年は、松坂屋岡崎店（2010年1月31日営業終了）、松坂屋名古屋店（2010年8月29日営業終了）を除く。

前年に松坂屋岡崎店、名古屋店を含めた12月度の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年▲3.9%減、百貨店事業合計 同▲3.6%減。

9～12月度累計の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年▲4.0%減、百貨店事業合計 同▲3.7%減。

(注2) 参考数値として、大丸松坂屋百貨店のうち12月度の増減率は、大丸合計 対前年▲1.7%減、松坂屋合計 同▲1.0%減。

9～12月度累計の増減率は、大丸合計 対前年▲2.5%減、松坂屋合計 同0.4%増。

(注3) 前年度まで高槻店に計上していた大阪法人外商統括部の売上は、本年度から心齋橋店に計上しています。また首都圏外商統合により、東京店の個人・法人外商、銀座店の個人外商の売上は上野店に計上しています。なお、外商移管の影響を除いた増減率は、12月度は、心齋橋店 対前年▲0.4%減、東京店 同▲2.5%減、上野店 同▲4.0%減、銀座店 同▲18.2%減、高槻店 同▲1.0%減。9～12月度累計は、心齋橋店 対前年6.6%増、東京店 同▲4.1%減、上野店 同▲0.1%減、銀座店 同▲11.4%減、高槻店 同1.4%増。

2. 大丸松坂屋百貨店直営店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	12月度	9～12月度累計
紳士服・洋品	▲5.2	▲5.8
婦人服・洋品	0.5	0.7
子供服・洋品	▲1.1	▲2.0
その他の衣料品	▲10.3	▲8.4
衣料品計	▲1.3	▲1.1
身回品	▲4.3	▲5.0
化粧品	3.7	0.2
美術・宝飾・貴金属	▲4.8	▲4.0
その他雑貨	▲16.3	▲9.0
雑貨計	▲2.7	▲2.7
家具	▲5.6	▲5.7
家電	▲13.0	▲15.6
その他の家庭用品	▲1.3	2.5
家庭用品計	▲3.0	▲0.8
生鮮	2.4	1.3
菓子	1.3	▲0.9
惣菜	▲0.0	▲1.8
その他食料品	▲3.3	▲5.9
食料品計	▲0.1	▲1.9
食堂・喫茶	▲1.5	▲0.6
サービス	▲10.1	▲13.0
その他	▲3.5	8.3
合計	▲1.5	▲1.5

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、冬物衣料が堅調であったことや、基幹店舗を中心にラグジュアリーブランドが売上を伸ばしたことなどにより前年を上回った。紳士服・洋品は、コートやネクタイなどビジネス関連が苦戦した。身回品は、婦人ブーツが売上を伸ばしたものの、ハンドバッグなどが苦戦した。化粧品は、改装オープンした梅田店など全般的に好調であった。美術・宝飾・貴金属は、名古屋店などで高級絵画に動きが見られたものの催事が苦戦した。食料品は、お歳暮ギフトやおせち料理の好調が全体を牽引し、改装中の梅田店を除く売上では対前年プラスであった。